

## 第3学年〇組英語科学習指導案

福岡市立〇〇中学校  
指導者 〇〇 〇〇

### 1. 単元 Sunshine English Course Book#3 Program 6 Okinawan Music

#### 2. 指導観

○ 学習指導要領の改訂に伴い、4技能の総合的なコミュニケーション能力の基礎を養うことが目標に掲げられた。現在、小学校の外国語活動が進み、全国99%の公立小学校5年と6年で英語教育が行われている。しかし音声面を中心とした小学校の外国語活動に、中学校では書くこと・読むことの文字を使用した英語力の習得を加え、バランスを図っていかなければならない。また何よりも文法知識とその運用能力、さらに豊富な語彙力がなければ、コミュニケーション能力を高めることは不可能であると思われる。言語である以上、英語は一度の学習でマスターできるものではない。定着のためには長期的で反復・応用を伴う活用が必要である。また、そこには学習者本人の意欲や好みも大いに関係してくる。いかにして生徒の習得意欲を高めることができるかの試行錯誤を教師は繰り返していく必要がある。

本題材では日本が世界に発信する音楽をテーマとして取り上げている。沖縄音楽のもつ独特の音階のみでなく、美しい沖縄の風景の背後に横たわる悲しい戦争の歴史を歌った「島唄」がどのようにして世界の人々に好まれ、広がっていったかを読み取ることをねらいとしている。さらに平和をはじめ様々な地球上の問題について、音楽を通じてメッセージとして発信し、人々に影響を与えられることを学べる教材でもある。言語材料としては現在分詞と過去分詞の後置修飾および接節の用法について学習する。名詞を修飾する方法として2年生までに形容詞や不定詞の形容詞的方法を学んできたが、特に後置修飾の形をとることで名詞の形がどんどん長くなっていく英語の仕組みについて理解を深め、日本語との相違点にも目を向けることで、さらに幅広い表現ができるようになるものと思われる。

○ 本学級の生徒は29名(男子15名、女子14名)である。比較的少人数の学級のため、教室環境もゆったりと感じられ指導の目が行き届きやすい。進級するにつれ学習に真面目に臨む姿勢ができ、授業中の教師の要求に対して素直に活動し、発表・発言も多い。一方で通級指導教室に通う生徒や英語を極端に苦手とする生徒もいて、指導には工夫が必要である。教科書の音読が好きで、声がよく出るのが、学年の特徴である。1年次では教科書の音読のみでなく、本文の暗記を全員が頑張ってきた。2年次になり、教科書本文の有用な表現を抽出し Useful Expressions というプリントを使い、固定のペア学習の形態で、提示した表現をパラフレーズしていく口頭英作文の表現練習をセッションごとに行ってきた。ペアは、4月当初より固定し、教え合いのできる相性のよい相手と組んでいるため、全員が意欲的に活動できている。また、口頭のみで解答を言うため、英語力の不十分な生徒でも達成感を味わうことができている。3

年次では Useful Expressions のほかにも、4技能の力を高めるために Reading Marathon や Writing Marathon と称し、短時間で解ける投げ込み教材にも取り組んでいる。特に Writing での表現力向上のために、英作文の基礎練習、文法の復習、条件英作文の練習を行い、自分たちの間違い表現に気づくことで、発想の違いも学んでいる。しかし、つづりが書けない、3年間の文法の習得内容が思い出せない、書きたい内容が発想できない、などの問題があり指導には時間がかかる。

○ 指導にあたっては後置修飾の文法の基礎を導入する際に、カードを利用し、修飾される名詞にどんどん意味を加えていく練習をグループで行いたい。ここでは日本語との構造の違いにも目を向けさせる。その後文法のまとめと練習問題を兼ねた補助プリントを利用し、英語の構造を理解させ、知識の定着を図る。さらに、題材の背景となる Okinawan Music について資料を用意し、興味関心を引き出しながら、本文理解を深めたい。また、本文音読の練習においては、より本物の英語に近い音やリズムで読めることを目標とする。そのためには、繰り返し読みや、一斉読み、シャドウイング、ペアシャドウイングなど様々なパターンで読み、発音やイントネーションへの指導助言を行いたい。

本文中の新出表現をさらに発展させ、使える英語へとするために、毎セッションごとにプリント Useful Expressions を利用しペアで口頭英作文練習を行う。Writing 力の向上に向けての活動にも本単元の言語材料を一部利用し、生徒が自然に自分の身近なことについて表現できるように、問題内容に工夫を加えたい。

#### 3. 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度  
・既習の表現と、本単元での言語材料を組み合わせ、積極的に自分の体験や考えを伝えようとしている。

表現の能力	・分詞などの形容詞句を用いて人や物の内容を詳しく説明できる。
理解の能力 言語や文化についての知識・理解	・本文の内容やメッセージを理解することができる。 ・平和や世界の問題について音楽の伝えるメッセージ力を理解するとともに、積極的に歌詞の持つ意味を考え る姿勢を養う。 ・分詞の後置修飾のしくみについて理解している。

4. 指導・評価計画（8時間）

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準（関心・意欲、表現、理解、言語・文化）		Cと判断される生徒への手立て	
				A	B		
2	<p>人や物についてくわしく説明する言い方ができるようにしよう。</p> <p>S1, S2 の基本本文を理解しそれを用いた表現活動としてカードを用いてグループでゲーム形式で英文を組み立てる。文法のとらえプリントに取り組む</p>	<p>既習の形容詞表現の復習をすることで形容詞の役割を確認させる。</p> <p>グループの中で競い合って楽しく活動させる。</p>	<p>関：カードゲームに積極的に参加しようとする。(様相チェック)</p> <p>言：後置修飾の分詞の形容詞的役割を理解している。(プリント分析)</p>	<p>グループの中で積極的に活動に参加し、英文を作ったり英文の意味を言おうとしたりしている。</p>	<p>基本本文を用いて正確に人や物の説明ができる。</p>	<p>基本本文を用いて人や物の説明がほぼできる。</p>	<p>使用する単語のつづり・意味などをプリントの隅にのせておく</p> <p>読み仮名つきの解答を他生徒よりも早めに渡し覚える時間を長くとる</p>
1	<p>S1 の新出単語・本文を理解し、それに対する Q&amp;A に答える。新出表現の応用練習 Useful Expression をする。</p>	<p>本文が伝えるメッセージを読み取らせる。</p>	<p>理：沖縄音楽について書かれた本文の内容を読み取ることができる。(発言チェック)</p> <p>関：ペアでの活動に積極的に取り組もうとする。(様相チェック)</p>	<p>大意の把握だけでなく細かな部分まで正確に意味をとることができる。</p> <p>協力してペアでの活動に取り組もうとしている。</p>	<p>ほぼ正確に作るることができる。</p> <p>つまづきはあるが助けられてつくることのできる。</p> <p>大まかに意味を把握することができる。</p>	<p>大まかに意味を把握することができる。</p>	
1	<p>S2 の新出単語・本文を理解し、それに対する Q&amp;A に答える。音読練習、Writing 練習プリントに取り組む。(S1 小テスト)</p>	<p>島唄を聴き興味関心をもたせる。</p> <p>Writing ではできるだけ身近な事を表現できるように問題を工夫する。</p>	<p>表：新出表現を正しく使って英文を言うことができる。(様相チェック)</p> <p>理：本文の内容を読み取ることができる。(発言チェック)</p>	<p>解答をほぼ正確に作るることができる。</p> <p>大まかに意味を把握することができる。</p> <p>正確な英文を書くことができる。</p>	<p>ほぼ正確な英文を書くことができる。</p>		
本時 1	<p>S2 の新出表現の応用練習 Useful Expression をする。Writing 練習プリントに取り組む。</p>	<p>英語の歌を聴き、歌のメッセージを考えさせる。</p> <p>表現の使い方のポイントがわかるように説明を加える。</p>	<p>関：ペアでの活動に積極的に取り組もうとする。(様相チェック)</p> <p>表：新出表現を正しく使って英文を言うことができる。(様相チェック)</p> <p>表：正しい文法を用いて適切な表現で英文を書き表すことができる。(記述内容分析・発言チェック)</p>	<p>協力してペアでの活動に取り組もうとしている。</p> <p>解答をほぼ正確に作るることができる。</p> <p>正確な英文を書くことができる。</p>	<p>つまづきはあるが助けられてつくることのできる。</p> <p>ほぼ正確な英文を書くことができる。</p>	<p>読み仮名つきの解答を他生徒よりも早めに渡し覚える時間を長くとる</p> <p>作文のアドバイスを与え、解答を正確に複写させる。</p>	
1	<p>S3 の基本本文（接触節）について理解しそれを用いた表現活動をする。Writing 練習プリントに取り組む。(S2 小テスト)</p>	<p>練習プリントには文法のポイントがわかるように工夫をする。</p>	<p>言：接触節の形容詞的役割を理解している。(プリント分析)</p> <p>表：正しい文法とつづりで英文または新出の単語を書くことができる。(記述内容分析・発言チェック)</p>	<p>基本本文を用いて正確に人や物の説明ができる。</p> <p>正確な英文を書くことができる。</p>	<p>基本本文を用いて人や物の説明がほぼできる。</p> <p>ほぼ正確な英文を書くことができる。</p>	<p>使用する単語のつづり・意味などをプリントの隅にのせておく</p> <p>読み仮名つきの解答を他生徒よりも早めに渡し覚える時間を長くとる</p>	
1	<p>S3 の新出単語・本文を理解し、それに対する Q&amp;A 音読練習をする。</p>	<p>リズムよく音読できるようにアドバイスをする。</p> <p>単元のとらえとなるよう文法のポイントを確認する。</p>	<p>理：本文の内容を読み取ることができる。(発言チェック)</p>	<p>大意の把握だけでなく細かな部分まで正確に意味をとることができる。</p> <p>協力してペアでの活動に取り組もうとしている。</p>	<p>大まかに意味を把握することができる。</p>		
1	<p>S3 の新出表現の応用練習 Useful Expression をする。Let's Practice や Let's Communicate の単語と Listening ・ Writing 等の練習をする。(S3 小テスト)</p>		<p>関：ペアでの活動に積極的に取り組もうとする。(様相チェック)</p> <p>表：新出表現を正しく使って英文を言うことができる。(様相チェック)</p> <p>表：正しい文法を用いて適切な表現で英文を書き表すことができる。(記述内容分析・発言チェック)</p>	<p>解答をほぼ正確に作るることができる。</p> <p>正確な英文を書くことができる。</p>	<p>つまづきはあるが助けられてつくることのできる</p> <p>ほぼ正確な英文を書くことができる。</p>		

5. 本時 平成21年10月7日(水)第5校時 場所：3年〇組教室

(1)本時の主眼

- ・ペア活動での表現練習や英作文の活動に積極的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・分詞の後置修飾を理解し、他にも、本文中に使われている有用な英語表現を使って自己表現ができる。(表現の能力)

(2)本時の指導観

前時までに、生徒は現在分詞と過去分詞の後置修飾について学んでいる。また本文の新出単語の確認、内容理解、Q&Aなどについて学習が終わったばかりである。

本時導入では沖縄音楽の世界への広がりについて話し、Warming Upとして「島唄」の英語 version を聞かせる。本時では特に、本文中から抽出した新しい英語表現と、分詞の後置修飾による形容詞の用法を使って自己表現することをねらいとする。本文にはたくさんの有用な表現があり、その英文をパラフレーズしていくことで、様々な発展的表現に広がっていくことを学ばせたい。また、3年目となるペア活動では、生徒同士が教え合い、助け合うことで学習意欲をもって取り組むことができると考えるが、極端に英語を苦手とする生徒に対しては早めに読み仮名つきの解答を配布することで、活動を助け、ペア活動が滞ることがないように配慮する。

また、書く活動(Writing Marathon)においては前時に行った英作文プリントより抽出した3年生生徒にありがちな典型的間違いを提示することで、英作文をする際の英語的発想力の必要性に気づかせたい。同時に既習表現を駆使し長い英文を書くことができるよう指導にあたりたい。

- (3)準備 ① BC Repeater ② CD (Shima-Uta by Izzy) ③ 本文 CD ④ Useful Expressions + 歌詞 プリント ⑤ Writing Marathon プリント ⑥ 小テスト用練習プリント ⑦ ポイントシール

6. 過程

学習活動・内容	資料 用具	指導上の留意点	形態	配 時	評価規準	評価基準		Cと判断される 生徒への手立て
						A	B	
<p>めあて</p> <p>何かかされている物やしている物の 詳しい説明が言えるようになる。</p> <p>1. あいさつ</p> <p>2. Warm-Up</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島唄のアルゼンチンや、ロシア、イギリスでの流行について話を聞く。</li> <li>・IzzyのShima-Uta 英語 version を聞く。</li> </ul> <p>3. 本文 reading 練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範読リピート→CDリピート</li> <li>→一斉読み→CDシャドウイング→ペアシャドウイング</li> </ul> <p>4. Useful Expressions</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文より抜き出した3つの英文の表現を復習する。</li> <li>・ペアでプリントにある日本語を口頭で英作文していく。</li> <li>・答えをもらいテスト形式でチェックしあう。全部言えたらシールをもらう。</li> <li>・早く終わったら席を戻し、プラスαの表現練習と小テスト練習に取り組む。</li> </ul> <p>5. Writing Marathon</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時プリントより抽出した間違い表現の例について考える。</li> <li>・分詞を含む英作3題に取り組む。</li> <li>・条件英作文を書き提出する。</li> </ul> <p>6. 次時の予告とあいさつ</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>④</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑦</p> <p>⑥</p> <p>⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあて、曜日、日付を板書しておく。今日の授業で解説する英文をあらかじめ板書しておく。</li> <li>・あいさつは大きな声で行わせる。</li> <li>・本文内容の振り返りをしながら島唄が世界で歌われたことを知らせる。</li> <li>・日本語の歌詞を見ながらほぼ直訳となる英語の歌詞を考えさせる。</li> <li>・本文の意味を考えながら読むように注意する。</li> <li>・ペア活動の準備となるようにしっかり声を出し楽しく活動させる。</li> <li>・表現の使い方のポイントがわかるように説明を加える。</li> <li>・活動がうまくいってないペアには机間巡視しながらアドバイスをする。</li> <li>・チェックが終わったペアにはポイントカードにシールを貼付して回る。</li> <li>・あらかじめ教室にプリントは備え付けておく。</li> <li>・日本語的発想と英文の構造が違うことに気づかせる。</li> <li>・積極的に分詞が使えるようヒントを与える。</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>2 8</p> <p>一斉</p> <p>8</p> <p>ペア</p> <p>15</p> <p>ペア</p> <p>個人</p> <p>15</p> <p>一斉 個人</p> <p>2</p>	<p>関：ペアでの活動に積極的に取り組もうとする。 (様相チェック)</p> <p>表：新出表現を正しく使って英文を言うことができる。 (様相チェック)</p> <p>表：正しい文法を用いて適切な表現で英文を書き表すことができる。 (記述内容分析・発表チェック)</p>	<p>・協力してペアでの活動に取り組もうとしている。</p> <p>解答をほぼ正確に作ることができる。</p> <p>正確な英文を書くことができる。</p>	<p>多少のつまづきはあるが助けられて作ることができる。</p> <p>ほぼ正確な英文を書くことができる。</p>	<p>読み仮名つきの解答を他生徒よりも早めに渡し覚える時間を長くとる。</p> <p>作文のアドバイスを与える。解答を正確に視写させる。</p>	

## Writing Marathon

No. 7

英作文

- (1) 福岡にはいくつかの有名なお祭りがあります。
- (2) どんたくではしゃもじを持って踊っている人を見ることができます。
- (3) 私たちは玄界灘 (the Sea of Genkai) で獲れた新鮮な魚を食べることができます。

アメリカから来た中学生に、次のように質問されました。あなたならどう答えますか。

**Please tell me about the good points of Fukuoka ?**

条件

- ・ 30 語以上の英語を用いること。
- ・ 英文の数はいくつでもよいが文で書くこと。
- ・ 質問の内容に的確に答え、まとまりのある英文を書くこと。

---

---

---

---

---

---

---

---

3年 ( ) 組 ( ) 番氏名 ( )

## Program 6-2 会話 Useful Expressions

**Many famous musicians and singers were born there too.**  
**多くの有名なミュージシャンや歌手もそこで生まれました。**

- ① 私は福岡で生まれました。  
I was born in Fukuoka.
- ② あなたはどこで生まれましたか。  
Where were you born ?
- ③ 彼は7月25日に生まれました。  
He was born on July 25th.

**I like Shimauta the best of all the songs written in Okinawan melody.**  
**沖縄音楽で書かれたすべての歌の中で私は島唄が一番好きです。**

- ① 夏目漱石によって書かれた本を読んだ事がありますか。  
Have you ever read a book written by Natume Soseki ?
- ② 私たちは1906年に建てられたホテルに滞在しました。  
We stayed at a hotel built in 1906.
- ③ 私は有名な写真家 ( photographer ) によってとられた写真を持っています。  
We have a picture taken by a famous photographer.

**The song expresses a special message through its words.**  
**その歌はその言葉を通して特別なメッセージを届けます。**

- ① 私たちは本を通して外国の事を学びます。  
We learn about foreign countries through books.  
=(overseas countries)
- ② その列車はトンネル ( tunnel ) を通り抜けて行った。  
The train went through the tunnel.
- ③ その川は村を流れて流れている。 \*流れる = run  
The river runs through the village.

\* write - wrote - written  
build - built - built  
take - took - taken

★フラスα できる人はやってみよう!!

上のアンダーラインの表現のどれかを使って、自由に英文を書いてみよう。

## Shima-Uta

featuring IZZY

作詞・作曲 宮沢和史

Deigo, the flowers that we held  
Distant winds sigh beneath the clouds  
Deigo, the flowers that we lost  
Distant winds call up on a storm  
I embrace my sorrow deep within  
Like the waves that cross the ocean shore

ウーヅの森であなたと出会い  
ウーヅの下で千代にさよなら

Shima-Uta my island ride the wind  
Together fly like birds across the ocean waves  
Shima-Uta my island ride the wind  
Deliverling my tears across the ocean waves

でいごの花も散り さざ波がゆれるだけ  
ささやかな幸せは うたかたの波の花

Uuji where we first sang in a forest green and gold  
Now I stand beneath the tree where I cried my last farewell

島唄よ 風に乗れ 鳥とともに海を渡れ  
島唄よ 風に乗れ 届けておくれ私の愛を

Shima-Uta my island ride the wind  
Together fly like a bird across the ocean waves  
Shima-Uta my island ride the wind  
Deliverling my tears across the ocean waves  
Shima-Uta my island ride the wind  
Deliverling my love across the ocean waves

## Writing Marathon No. 6 Typical Mistakes (よくある間違い表現)

★ 夏の課題の中で Geoff 先生が教えてくれたことです。

? I have a senior of my rugby team.

\* 英語の辞書では senior = 先輩

アメリカなどの西洋社会では、「先輩」「後輩」の概念はないから senior より school friend という表現のほうがよい。

★ 次の文の何が間違っているか考えて見よう！

× School trip went to Kyoto, Nara and Osaka.

× I was very enjoyed .

× The club is very enjoy.

× The school trip was made me happy.

× It was happy for me to do it.